



秀美

○新涼や新子の刺身似合ふ皿  
桃剥かれ赤裸々となるあはれかな  
秋刀魚焼くジャンヌスイアンのほろ苦く

とも

○父の菊一つ残りし庭の隅  
田んぼ貸し資材置き場や秋の暮  
三嶺の笹原枯死や鹿の道

文子

○とんぼ取り弟どこまで行ったやら  
空調服シェパードに着せ男過ぐ  
数珠玉や休耕田を独りじめ

農子

○赤蜻蛉墓石の角に停まりぬ  
露草のすがしさは無く畝被う  
早朝のポストの下の日々草

初江

○とんぼうの来るたび猫の大あくび  
食卓の水耕栽培芋の露  
霧深し集合写真まずピース

富江

坂の上白きベンチに秋の露  
赤トンボ牧野博士の碑に乱舞  
彼岸花咲いたの便り佐川より



丞子

白露や五才の描く爺と婆  
雨上りのベランダたたく鬼やんま  
第三の人生彼と老人の日

瑞枝

○空屋空地空屋空地のねこじゃらし  
露けしや鎮守の杜の土俵跡  
やんま追ふ子に段畑だんばたの迫り上がる

郁子

○芋の葉の露ころがせてひとり言  
痛かったはだしの足が銀ヤンマ  
競ひ合い高く高くと雲の峰

酔花

○ピアノ弾く師の指蝶を生んでゆく  
花の脇亡き母の畝でネギ植える  
手招きをしているような百日紅

えり

○バー夜露オカマのママの泣き黒子ぼくろ  
地獄耳極楽蜻蛉上うわの空  
鹿苑ろくわん寺僧の斜影や柳散る

志津子

○法師蟬父逝きし日の夕べにも  
主なき庭にひとときわ酔芙蓉  
彼岸花ここにもあったと一人言

富子

蜻蛉飛ぶいつの間にやら普通の日  
仏壇に露ごと活けるキバナコスモス  
連れあいの最後の買物六甲水

千代

○とんぼ飛ぶこの辺むかし海と島  
○とんぼうは教室が好き子らが好き  
露踏んで犬には犬の行きどころ

みどり

○亡びゆく清しさ連ね蜻蛉飛び  
蜻蛉の眼全てを写し何を観み  
裏庭に黒蜻蛉飛ぶあなた誰？

味元 昭次 作品

露草を揺らし黒猫あらわれる  
露の世は露の世ながら汚染水  
糸とんぼ護憲反核鬼やんま

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年十月二十五日(水)  
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室  
どなたでも自由にご参加いただけます

